

地域のまちづくりに関する施策の提案



「子育て・教育」

「環境・景観・防災・上下水」

「健康・福祉」

平成25年2月

宇都宮市上河内自治会議

目 次

はじめに	1
提案のテーマについて	2
各テーマの体系	3

テーマ「子育て・教育」

1 現状と課題	4
2 10年後の目標	4
3 方 策	5
4 実行プラン	
（1）実施内容	6
（2）スケジュール	7

テーマ「環境・景観・防災・上下水」

1 現状と課題	8
2 10年後の目標	8
3 方 策	9
4 実行プラン	
（1）実施内容	10
（2）スケジュール	11

テーマ「健康・福祉」

1 現状と課題	12
2 10年後の目標	12
3 方 策	13
4 実行プラン	
（1）実施内容	14
（2）スケジュール	15

会議の経緯	16
上河内自治会議委員名簿	17

はじめに

上河内自治会議では、合併市町村基本計画に掲げられた地域の目標像『自然と人が共生し、安心して暮らせる活力あふれる地域』を実現するため、地域のまちづくりに関する施策について、これまで2回の提案をしてきました。

3回目となる今回は、「子育て・教育」、「環境・景観・防災・上下水」、「健康・福祉」という3つのテーマについて、地域の現状を把握し、近い将来を見据えたうえで、解決すべき課題と10年後の目標を導き出し、各テーマにおいて5つの方策を掲げました。

また、各方策の取り組み内容の検討にあたっては、東日本大震災の直後に協議が始まったこともあり、その教訓を基として、日頃から人々が相互に支えあい、助け合いながら、地域の「絆」を深めていくことの重要性を念頭に置いた議論を展開してきました。そして、より実践活動に繋げていくために、上河内地区まちづくり協議会とも連携を図りながら、実行プラン（取り組み・スケジュール）としてまとめました。

なお、今後、日々変化する社会状況の中で必要に応じた取り組み内容の見直しを図りながら、より現状に合った質の高いまちづくり活動に繋げていくことが、効果的なまちづくりを進めていくうえで重要であると考えております。

本提案が、今後のまちづくりの指針となり、誰もが自分たちのまちに誇りと愛着を持って暮らしていけるよう、地域と行政が連携し、地域に合った特色あるまちづくりが展開されることで、将来にわたり持続的発展が可能な「誰もが住みやすい上河内」となることを切に望みます。

平成25年2月

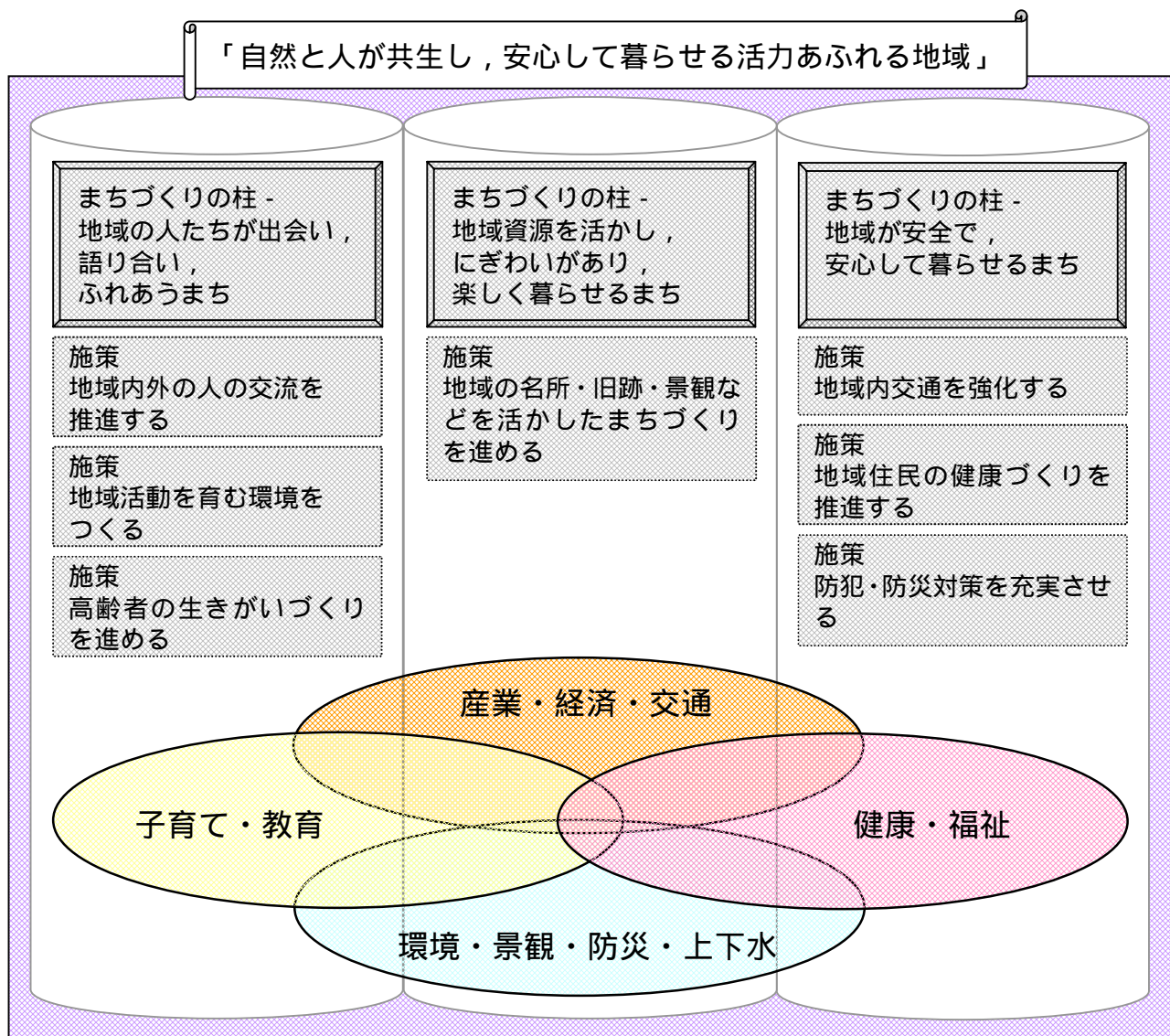
宇都宮市上河内自治会議

提案のテーマについて

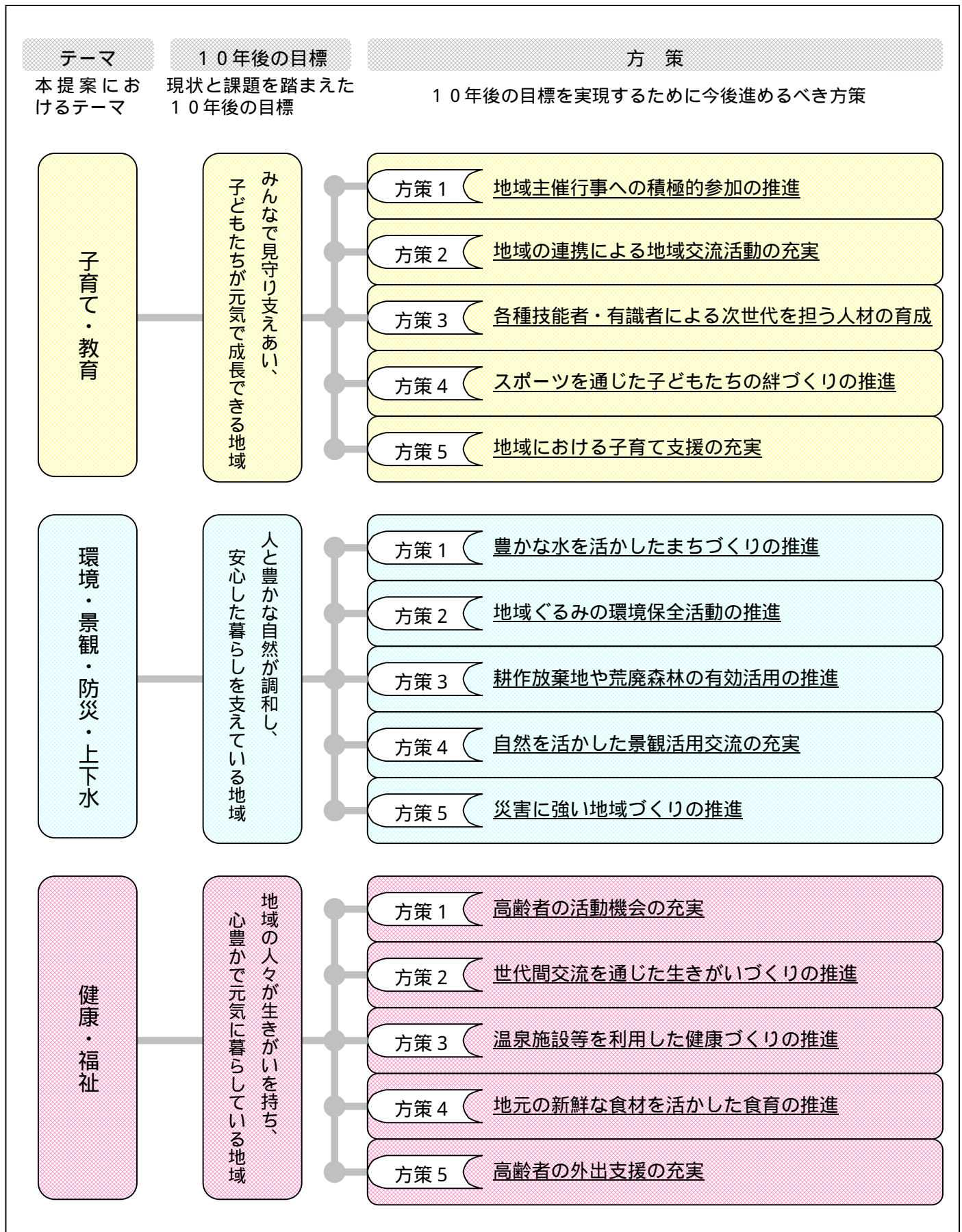
平成21年3月に提出した提案書は、まちづくりの3本の柱とそれらを達成するための7つの施策で構成されております。

また、平成22年度には、まちづくりの3本の柱を基礎とした地域に欠かせないまちづくりのテーマとして、「産業・経済・交通」、「子育て・教育」、「環境・景観・防災・上下水」、「健康・福祉」の4つを導き出し、その中でも地域の活性化に欠かすことのできない「産業・経済・交通」について平成23年2月に提案しました。

今回は、まちづくりの3本の柱を確立させるために、残りの3つのテーマである「子育て・教育」、「環境・景観・防災・上下水」、「健康・福祉」について議論し、提案書としてまとめました。



各テーマの体系



テーマ「子育て・教育」

1 現状と課題

(現 状)

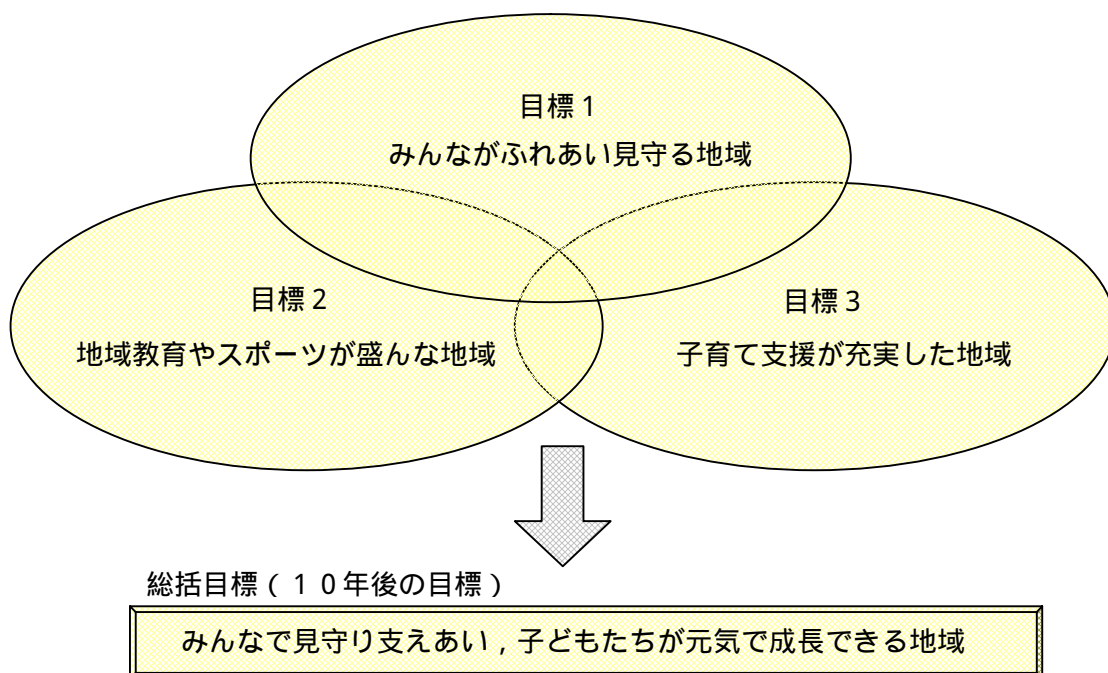
親と子どもが一緒に行事に参加していない。
地域の人たちと子どもの交流の場が少ない。
地域には団塊の世代の技能者がたくさんいる。
子どもたちが一緒になって体を動かす機会が少ない。
子育て中の親同士が気軽に集い、相談できる交流の場が少ない。

(課 題)

各種行事への参加者を増やし、地域とのふれあいを大切にする必要がある。
地域・学校・子どもたちが一丸となり、交流活動を充実させる必要がある。
団塊の世代の高い技術や能力を持った方々を発掘し、子どもたちの教育に活かしていく必要がある。
子どもたちが気軽にスポーツに参加できる機会を増やす必要がある。
子育て支援を強化し、保護者の育児に対する悩みを軽減させる必要がある。

2 10年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ、3つの目標を掲げたうえで、10年後の目標を
「みんなで見守り支えあい、子どもたちが元気で成長できる地域」に決めました。



3 方 策

10年後の目標を実現するために今後進めるべき5つの方策

みんなで見守り支えあい、子どもたちが元気で成長できる地域

目標1 みんながふれあい見守る地域

方策1 地域主催行事への積極的参加の推進

地域主催行事への参加の呼びかけや魅力ある行事への転換等により、多くの方々が行事に関心を持って積極的に参加できるよう、地域主催行事の更なる充実を図る。

方策2 地域の連携による地域交流活動の充実

地域ぐるみであいさつ運動やラジオ体操などに取り組み、地域の連携を高めることで、交流活動の充実を図る。

目標2 地域教育やスポーツが盛んな地域

方策3 各種技能者・有識者による次世代を担う人材の育成

団塊の世代の高い技術や能力を持った方々に協力を呼び掛け、各種育成講座を開催し、次世代を担う地域の子どもたちの教育に活かす。

方策4 スポーツを通じた子どもたちの絆づくりの推進

子どもたちがスポーツを通じて達成感や一体感を共に実感できるよう、地域に慣れ親しんだスポーツの復活等により、多くの子どもたちがスポーツに参加することができる環境づくりを推進する。

目標3 子育て支援が充実した地域

方策5 地域における子育て支援の充実

地域における子育て支援を充実させ、子育て中の親同士が子育ての悩みについて話し合えるような環境づくりを推進する。

4 実行プラン

(1) 実施内容

目標	方 策	取り組み	内 容
みんなで見守り支えあい、子どもたちが元気で成長できる地域	方策1 地域主催行事への積極的参加の推進	行事参加意欲の向上	地域行事の実態調査に基づき、地域情報紙の歳時記の充実を図るとともに、より魅力ある行事を開催することで、行事への参加意欲を向上させる。
		伝統行事や伝統文化の伝承	伝統行事や伝統文化に関する「まち教授」を募集し、小中学校・幼稚園・保育園と連携して子どもたちに伝えていく。
		親子ふれあいの場の提供	親子で参加できる行事を企画・開催し、ホームページや学校等で参加を促すことで、親子のふれあいの場を提供する。
	方策2 地域の連携による地域交流活動の充実	地域ぐるみのあいさつ運動（オアシス運動）の実施	あいさつ運動を実施するためのボランティアの募集や学校を通じた各家庭へのあいさつ運動チラシの配布により、地域・学校・家庭が一体となったあいさつ運動（オアシス運動）を展開する。
		地域ぐるみのラジオ体操の実施	学校と連携してラジオ体操を推進するとともに、地域における夏休みのラジオ体操の取り組みの統一を図り、地域全体のイベントに設定することで、一緒になって体を動かす機会を創出する。
	方策3 各種技能者・有識者による次世代を担う人材育成	各種育成講座の開催	さまざまな能力を有する方々の協力のもとで各種講座を開催し、人材育成に繋げる。また、各学校に働きかけ、小中学生を対象に地域マップや名所旧跡DVDを活用した出前講座を開催し、地域の歴史文化などを次の世代に伝える。
	方策4 スポーツを通じた子どもたちの絆づくりの推進	スポーツ参加機会の提供	子どもたちが気軽に参加できるようなミニサッカー・縄跳び・ドッチボールなどを地域行事に合わせて開催することで、スポーツへの参加機会を子どもたちに多く提供する。
		地域資源を活かしたスポーツのできる環境づくり	スポーツ指導者の協力のもとで既存施設を活用したスポーツ教室の開設により、子どもたちがスポーツを始めるきっかけづくりを支援する。また、地域スポーツクラブの設置等により、更なるスポーツの充実を図る。
	方策5 地域における子育て支援の充実	家庭教育力の強化	乳幼児を含めた子育ての実態調査を行い、調査に基づき子育て相談を充実することで、子育て中の保護者が安心して子育てができる環境をつくる。
		子どもの家の交流	上河内東小学校・上河内西小学校敷地内に子どもの家を整備し、放課後における安全で安心な生活の場を提供するとともに、地域にある3つの子どもの家が連携して合同事業を展開し、子育て中の保護者の交流機会を充実させる。 (合併市町村基本計画付議事項)

オアシス運動・・・あいさつの言葉の頭文字をとったもので、オ「おはようございます」、ア「ありがとうございます」、シ「失礼します」、ス「すみません」を、日頃から言えるように心掛けるための運動

(2) スケジュール

取組	3 年後までに	5 年後までに	1 0 年後までに
	・地域行事の実態調査 (伝統行事の掘り起こし・絞り込みを含む) ・地域情報紙の歳時記を充実化	・魅力ある行事への転換	
	・「まち教授」を募集	・伝統行事や伝統文化と学校教育の連携 ・学校等へ「まち教授」を派遣	
	・既存行事の把握 (子ども会・育成会を含む)	・親子参加型行事を企画開催 ・ホームページや学校等で参加促進	
	・あいさつ運動ボランティアの募集 ・学校を通じたあいさつ運動チラシの配布 ・地域全体であいさつ運動を実施		
	・ラジオ体操の取り組み内容の検討 ・学校と連携したラジオ体操の推進	・ラジオ体操を地域全体のイベントに設定	
	・さまざまな能力を有する方々の発掘 ・ニーズ調査 ・各種講座のメニューづくり ・学校等への紹介	・各種講座の開催	
	・子どもたちが気軽に参加できるようなスポーツの内容を検討	・地域行事に合わせスポーツを開催	
	・スポーツ指導者の発掘	・既存施設を活用したスポーツ教室の開催	・地域スポーツクラブの設置 ・スポーツ施設の整備
	・子育て実態調査	・調査を基にした子育て相談の充実 ・交流機会の提供	
	・上河内東小, 上河内西小の子どもの家を学校敷地内に整備	・子どもの家のスタッフを対象に研修会を開催 ・上河内地区内 3 つの子どもの家が連携し, 合同事業を実施 ・保護者の交流機会の充実	

テーマ「環境・景観・防災・上下水」

1 現状と課題

（現 状）

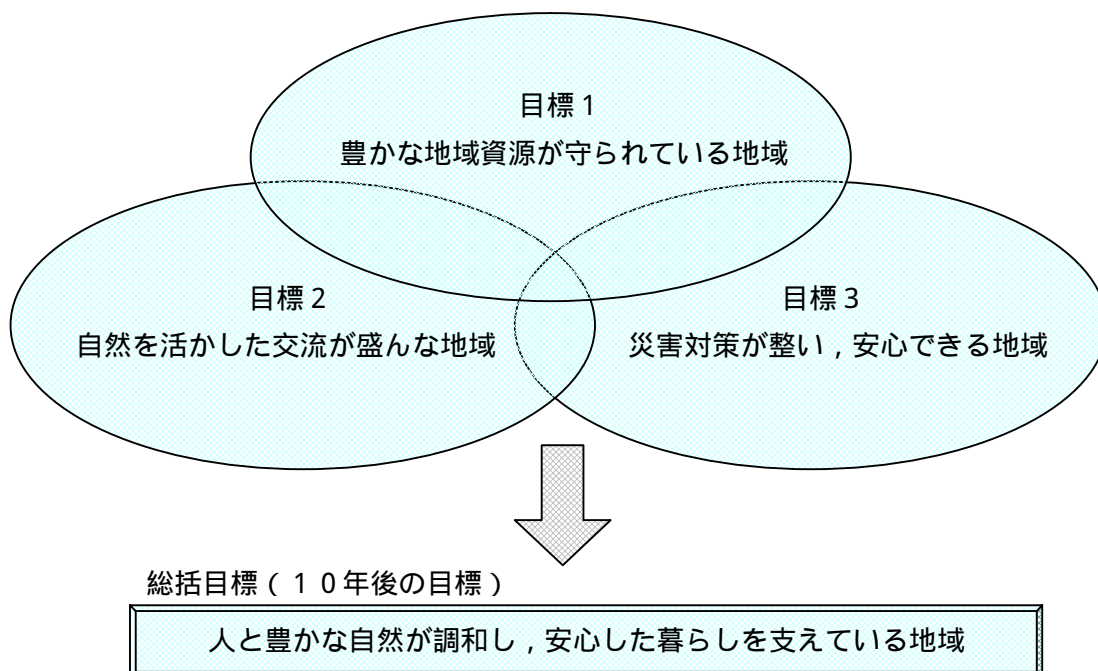
鬼怒川・西鬼怒川・山田川などがあり、水が豊かな地域である。
ごみのポイ捨てや不法投棄などが目立つ。
農林業従事者の高齢化等により、耕作放棄地が増加している。
美しい自然や景観などの地域資源がたくさんある。
地域によって土砂くずれや洪水など、さまざまな災害が想定される。

（課 題）

水質を保全し、豊かな水資源を活かしたまちづくりを推進する必要がある。
環境問題に関心を持たせ、地域全体で環境保全活動に取り組む必要がある。
耕作放棄地や荒廃森林を有効活用し、放棄地を減らす必要がある。
地域の美しい自然を再発見（整備）し、交流人口の増加に繋げる必要がある。
地域に合った災害対策を確立し、災害時の防災体制を強化する必要がある。

2 10年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ、3つの目標を掲げたうえで、10年後の目標を
「人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている地域」に決めました。



3 方 策

10年後の目標を実現するために今後進めるべき5つの方策

人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている地域

目標1 豊かな地域資源が守られている地域

方策1 豊かな水を活かしたまちづくりの推進

上河内の豊かな水を保全し、良好な水資源を確保するとともに、安全な水を安定して供給することで、豊かな水資源を活かしたまちづくりを推進する。

方策2 地域ぐるみの環境保全活動の推進

地域ぐるみで清掃美化活動に取り組み、ごみのない地域を目指すとともに、花とみどりのまちづくりを充実させ、美しい景観づくりを推進する。

目標2 自然を活かした交流が盛んな地域

方策3 耕作放棄地や荒廃森林の有効活用の推進

地域ボランティアの協力を得て、耕作放棄地や荒廃森林を有効活用することで、放棄地等の解消を図る。

方策4 自然を活かした景観活用交流の充実

上河内が誇る美しい自然や景観などの地域資源を有効に活用し、自然とふれあう機会を充実させ、地域内外の人との交流を推進する。

目標3 災害対策が整い、安心できる地域

方策5 災害に強い地域づくりの推進

地域に合った災害対策を考え、防災意識の高揚を図るとともに、地域が連携した災害に強い防災基盤を構築する。

4 実行プラン

(1) 実施内容

目 標	方 策	取 り 組 み	内 容
人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている地域	方策1 豊かな水を活かしたまちづくりの推進	水質の保全	河川の清掃活動の日を定め、定期的な河川の清掃を行うとともに、子どもたちの水環境に対する意識の啓発を行う。また、地域内の水環境を完全に整備することで、安全で安心な水質の管理を行う。（合併市町村基本計画付議事項）
		蛭マップの作成	蛭の生息地調査を基に蛭マップを作成するとともに、定期的な河川の清掃を行い、蛭が生息しやすい環境を維持する。
		豊かな水の活用	小水力発電を検討し、豊かな水資源を活用したまちづくりに繋げる。
	方策2 地域ぐるみの環境保全活動の推進	ごみ「0」運動の促進	毎月、清掃の日を定め、地域全体で定期的な清掃を行うとともに、地元の小中学生にごみ「0」運動に関する啓発ポスターを依頼し、不法投棄があるような場所に設置することで、ごみ「0」の地域を定着させる。
		花とみどりのまちづくり	ガーデニング講座やガーデニングコンテストの開催により、地域ぐるみで景観美化活動を推進する。
	方策3 耕作放棄地や荒廃森林の有効活用の推進	耕作放棄地の再生	耕作放棄地で草花の作付けや農業体験学習を行い、耕作放棄地を有効に活用する。
		荒廃森林の再生	地域ボランティアの活動協力を得て、荒廃した森林の間伐を推進し、森林全体を健康にしていくとともに、間伐材を有効に活用する。
	方策4 自然を活かした景観活用交流の充実	地域資源の発見	地域資源育成保全を行うボランティアを募集し、地域に眠っている資源を発掘するとともに、発掘した地域資源と梵天の里歩こうマップを連結させ、地区外の人との交流を深める。
		山田川サイクリングロードの整備	山田川サイクリングロードを整備し、サイクリングターミナルを設置するとともに、サイクリングロード沿いを花でいっぱいにする。
		ハイキングコースの整備	羽黒山周辺のハイキングコースを整備し、羽黒山周遊コースと名所旧跡と連結させた地区内ハイキングコースを設定する。
		西鬼怒川堤の整備	西鬼怒川堤に桜（黄桜など）を植林し、上河内の桜の名所に位置づけることで、地域内外の人との交流を推進する。
	方策5 災害に強い地域づくりの推進	災害対策の強化	災害に関する地域調査を行い、地域に合った災害対策を検討するとともに、多くの住民参加による防災訓練を通じ、各自治会の連携を強化するなどして防災意識を高める。
		井戸水マップの作成	地域にある井戸水調査（場所・水質）を行い、調査に基づく井戸水マップを作成することで、災害時の飲料水を確保する。

(2) スケジュール

取組	3 年後までに	5 年後までに	1 0 年後までに
	・ 定期的な河川の清掃活動 ・ 子どもたちの水環境に対する意識啓発（生き物調査を通じた河川の水質調査等）	・ 公共上下水道の整備推進 ・ 合併処理浄化槽設置の推進	
	・ 蛍の生息地調査 ・ 蛍マップの作成	・ 蛍マップに基づく河川の清掃 ・ 蛍マップを地域内に周知	
		・ 小水力発電の可能性について検討	・ 小水力発電の実施
	・ 定期的な自宅周辺の清掃活動を実施 ・ 地域の清掃日を定め、地域全体で清掃活動を実施（月 1 回） ・ 地元の小中学生に啓発ポスターを依頼し、不法投棄場所に設置		
		・ ガーデニング講座の開催 ・ ガーデニングコンテストの開催	
	・ 耕作放棄地の利用調査（他事例等） ・ 耕作放棄地の活用方法と場所を選定	・ 耕作放棄地に草花を作付け ・ 耕作放棄地を農業体験学習に利用	
		・ 地域ボランティアの協力を得て、荒廃森林の間伐事業を推進 ・ 間伐材を有効に活用	
	・ 地域資源育成保全ボランティアの募集 ・ 地域資源の発掘調査（梵天の里歩こうマップ等を活用）	・ 発掘した地域資源を小冊子にまとめ、各公共施設に設置 ・ 美しい景観地や名所旧跡等の維持管理を強化	
		・ 山田川サイクリングロードの整備 ・ ロード沿に花を植栽	・ サイクリングターミナルの設置
		・ 羽黒山周辺のハイキングコースを整備 ・ 名所旧跡等と連結させ、地区内ハイキングコースを設定	
			・ 西鬼怒川堤に桜（黄桜など）を植林し、桜の名所に設定
	・ 災害に関する地域調査 ・ 上河内版ハザードマップの作成 ・ 地域全体で防災訓練を実施 ・ 災害時緊急用具を適正保管		
	・ 地域にある井戸水調査（場所・水質） ・ 井戸水マップの作成	・ つるべ井戸の設置	

テーマ「健康・福祉」

1 現状と課題

（現 状）

高齢者が生涯にわたり活躍できる機会が少ない。

高齢者の生きがいに繋がるような交流の場が少ない。

地域には温泉施設や保健センターなど、健康づくりに活用できる施設がある。

地域には新鮮な野菜等がたくさんある。

高齢者や体の不自由な方が外出できる足が確保されていない。

（課 題）

ボランティア活動等を通じ、高齢者の社会参加と生きがいを推進する必要がある。

高齢者の昔ながらの知恵や経験を活かし、世代間の絆づくりを推進する必要がある。

温泉施設や保健センターを有効活用し、健康づくりを推進する必要がある。

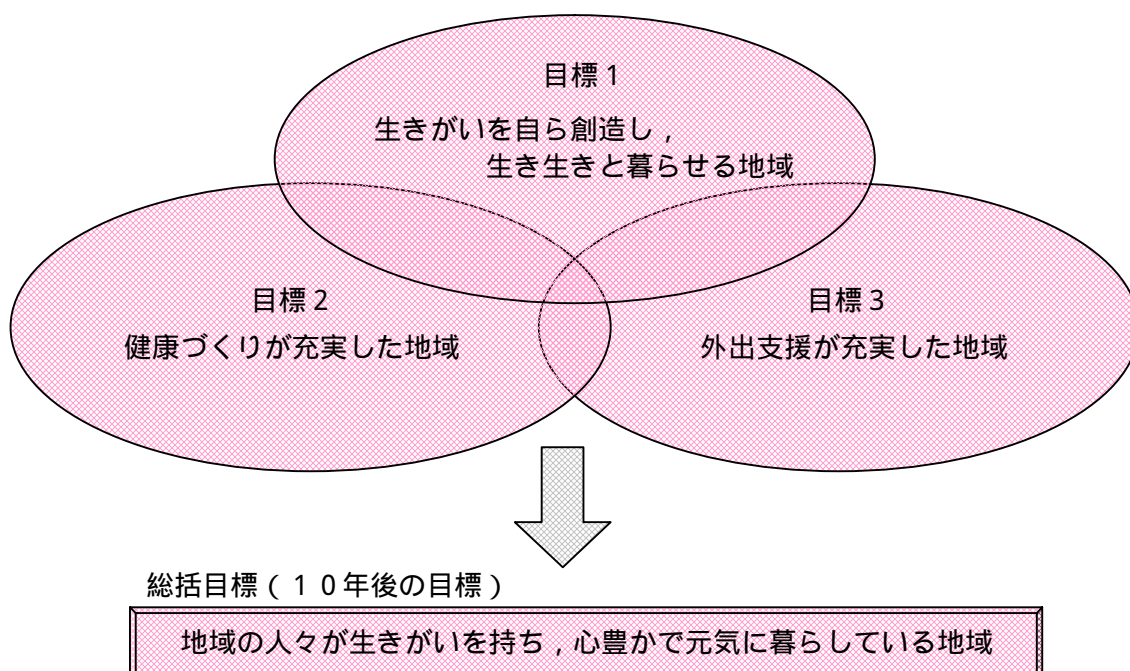
地域の食材を活用した食育活動を通じ、食への関心を高め、健康づくりを推進する必要がある。

地域に合ったデマンドタクシーの運営や生きがいをづくりの場の提供などにより、高齢者の外出支援を充実させる必要がある。

2 10年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ、3つの目標を掲げたうえで、10年後の目標を

「地域の人々が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている地域」に決めました。



3 方 策

10年後の目標を実現するために今後進めるべき5つの方策

地域の人々が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている地域

目標1 生きがいを自ら創造し、生き生きと暮らせる地域

方策1 高齢者の活動機会の充実

いつまでも元気で生き生きと暮らしていけるよう、高齢者の活動機会の充実を図る。

方策2 世代間交流を通じた生きがいづくりの推進

高齢者の昔ながらの知恵や経験を活かした世代間交流を充実させ、高齢者の生きがいづくりを推進する。

目標2 健康づくりが充実した地域

方策3 温泉施設等を利用した健康づくりの推進

住民自らが積極的に健康づくりに参加できるよう、温泉施設や保健センターを拠点とした質の高い健康づくりを推進する。

方策4 地元の新鮮な食材を活かした食育の推進

上河内の新鮮でおいしい食材を利用した料理教室等により、食とふれあう機会を充実させ、地域の方々の食への関心を深めることで、食育の推進を図る。

目標3 外出支援が充実した地域

方策5 高齢者の外出支援の充実

デマンドタクシーを充実させ生活圏を拡大するとともに、高齢者が身近に集える居場所づくりなどにより、高齢者の外出支援の充実を図る。

4 実行プラン

(1) 実施内容

目標	方 策	取り組み	内 容
地域の人々が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている地域	方策 1 高齢者の活動機会の充実	老人クラブ等の強化による生きがいづくり	人と人との繋がりを大切にし、老人クラブ等への加入促進を図るための声かけ運動を継続的に行い、組織を強化させ、更なる活動の充実を図ることで、生きがいづくりを推進する。
		高齢者の社会参加の促進	上記の高齢者団体と連携を図りながら高齢者ボランティアバンクを設置し、ボランティア活動を行うとともに、高齢者ボランティアと地域団体との連携を強化することで、ボランティア活動の更なる充実を図る。
	方策 2 世代間交流を通じた生きがいづくりの推進	世代間交流の充実	地域における三世代交流事業()を推進するとともに、高齢者が地元の幼稚園や保育園に出向き、園児に昔ながらの遊びや伝統工芸等を伝えることで、世代間交流を推進する。
		温泉施設と保健センターの有効活用	温泉施設と保健センターが連携して健康づくり教室を開催するとともに、既存の健康づくり教室のPRを強化し、多くの方々が参加できる機会を提供する。
	方策 3 温泉施設等を利用した健康づくりの推進	歩くことによる健康づくり	上河内にある歩く会のネットワークを強化し、上河内地区全域のウォーキングデーを定め、温泉施設を中心とした周辺の散策などを行う。
		高齢者に配慮した温泉施設の再整備	利用者ニーズ調査に基づき、高齢者にやさしい温泉施設内の整備を行うことにより、安心して利用できる施設を提供する。(合併市町村基本計画付議事項)
		食とふれあう機会の提供	地元の食材を使用した料理教室などを行い、食の大切さを地域に広く伝えとともに、次の世代に食文化を継承するための会食会などを開催する。
	方策 4 地元の新鮮な食材を活かした食育の推進	学校と連携した食育活動	学校教育の中で農業体験を拡大するとともに、自分で収穫した野菜を使用して食育教室を開催することで、次の世代に食の大切さを伝えていく。
		地場産の野菜等を使った料理の開発	地場産野菜等を使用したメニューの開発や上河内の郷土料理など、上河内の食文化を地域内外に波及させる。
	方策 5 高齢者の外出支援の充実	高齢者の外出意欲の向上	高齢者の趣味や特技などを活かした発表会などを開催することで、高齢者の外出意欲を向上させる。
		デマンドタクシーを利用した外出支援の強化	多くの高齢者が進んで外出できるような地域に合ったデマンドタクシーの運営により、高齢者の外出を支援する。
		高齢者の身近なふれあいづくりの場の提供	隣近所・公園・公民館など、いつでも集まれる場所を高齢者に開放することで、高齢者の趣味や特技などを活かすことができるふれあいの場を提供する。

三世代交流事業・・・子ども・保護者・高齢者が一堂に会し、竹とんぼなどの昔遊びやさまざまな交流機会を通じ、お互いにもたらす良い効果や世代の枠を超えた絆をより深めるために実施している事業

(2) スケジュール

取組	3 年後までに	5 年後までに	1 0 年後までに
	・老人クラブ等への加入促進 (各種事業紹介・声かけ運動等)	・老人クラブ等の活動の充実	
	・高齢者ボランティアの募集 ・ボランティアバンクを設置 ・市のボランティアセンターを活用 ・ボランティアニーズの調査 ・1 人1 分野ボランティア活動の実施	・高齢者ボランティアと地域団体との 連携強化	
	・地域における三世代交流事業を推進 ・高齢者が地元幼稚園や保育園の園児に 出向き、昔ながらの遊び等を伝授		
	・意見交換会の実施(梵天の湯・保健セ ンター・地域) ・温泉施設と保健センターが連携し、健 康づくり教室を開催 ・保健センターで実施している各種健康 づくり教室の PR の強化		
	・上河内にある歩く会のネットワーク化 ・ウォーキングデーを定め、梵天の湯周 辺を散策		
	・利用者ニーズ調査 ・意見交換会の実施(地域・行政)	・高齢者に配慮した温泉施設内の再整備	
	・料理研究会をつくり、地元食材を使用 した料理教室を開催 ・会食会などの開催		
		・学校教育の中で地場産野菜の栽培収 穫に参加 ・小中学生を対象に食育教室を開催	
		・地場産野菜を使ったメニューの開発 ・郷土料理や開発した料理を地域内外 に PR	
	・高齢者の趣味や特技などを調査 ・高齢者の趣味や特技などを活かした発 表会を開催		
	・デマンドタクシーに対する理解の促進 ・運営組織の設立 ・デマンドタクシーの運営	・運営組織の充実	
	・高齢者が楽しめる企画を設定 ・地区毎の公民館を高齢者に開放する「ふ れあい・いきいきサロン事業」の推進	・地域情報紙に高齢者事業を掲載	・新たなサロンの開設

会 議 の 経 緯

《平成 2 3 年度》

第 4 回上河内自治会議	提案書のテーマの決定
第 5 回上河内自治会議	先進地視察研修 (那須塩原市 NPO 法人ゆいの里「街中サロンなじみ庵」)
第 6 回上河内自治会議	地域の現状と将来予測 (グループ協議)
第 7 回上河内自治会議	課題の抽出・重点課題の検討 (グループ協議)
第 8 回上河内自治会議	重点課題の決定 (全体協議)

《平成 2 4 年度》

第 1 回上河内自治会議	重点課題までの再確認 (全体協議)
第 2 回上河内自治会議	目標の設定 (グループ協議)
第 3 回上河内自治会議	実行プランの検討 (グループ協議)
第 4 回上河内自治会議	〃
第 5 回上河内自治会議	実行プランの決定 (全体協議)
第 6 回上河内自治会議	提案書 (案) の協議
第 7 回上河内自治会議	提案書の確定

上 河 内 自 治 会 議 委 員 名 簿

(任期：平成23年4月1日～平成25年3月31日)

会 長	太 田	正
副 会 長	神 山	光 男
委 員	赤 羽	博 行
委 員	江 連	脩 身
委 員	亀 田	勝 敏
委 員	川 津	昭 夫
委 員	北 見	和 弘
委 員	君 島	恭 子
委 員	櫻 井	清 一
委 員	櫻 井	誠
委 員	高 橋	みどり
委 員	田 口	利 男
委 員	束 原	勸 子
委 員	手 塚	道 子
委 員	手 塚	安 則
委 員	藤 井	直 和
委 員	星	優 美 子
委 員	谷 田 部	喜 美 江
委 員	山 口	和 子
委 員	横 塚	境

会長・副会長を除き五十音順